

「世界一安い化石レプリカ (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



100円ショップで買ってきた紙粘土一袋で、三葉虫のレプリカの材料が60~70個できる。



これを「三葉虫の型」に押し込む。石膏とちがって、直後に取り出すことができるのが、紙粘土の利点だ。



取り出すと、もう立体的な三葉虫になっている。このあと24時間ほど、しっかり乾燥させる。



白のまま配布しようかとも思ったが、いかにも化石らしくない。そこでやはり塗装をすることにした。それに必要なのが、この「針山ボード」だ。プッシュ・ピンを、速乾性のボンドで厚紙に貼ったものである。



そこに、乾燥させた三葉虫レプリカを一つずつ刺していく。白い三葉虫が70個も並ぶと、実に壮観だが、何かナウシカに出てくる「王虫(オウム)」の集団のようにも見える。



塗装はスプレーが一番手軽だが、今回は「味」を出そうと思い、水彩絵の具で行った。セピア(こげ茶)の絵の具を濃く説いて、太い平筆で一個一個塗っていく。台座のおかげで、揺れることなくうまく塗れた。